

# NANOG56・ARIN XXXレポート

□JPNIC IP事業部 奥谷泉



# NANOG56・ARIN XXIX 開催情報

## ■開催期間

NANOG56 2012年10月22日～24日

ARIN XXX 2012年10月24日～26日

## ■開催地

米国 テキサス州・ダラス

## ■参加者

NANOG56 580名 (うち発表者27名)

ARIN XXX 202名



例年通り、秋はNANOGとARINで  
back to back形式のミーティングを開催



# NANOG56・ARIN XXXの特徴

---

- NANOG・ARINのジョイントセッションを水曜日の午前中に開催
- NANOG56は計測や研究に関する発表が多い印象
- ARIN XXXではポリシー提案が6点あり、APNIC地域としても参考にできるものは、新gTLDへの割り当てポリシーに関する議論

# NANOG56

---

## □ Homeland Securityの方による発表

- 研究や計測の費用支援ができるものがないかNANOGコミュニティへ呼びかけ

## □ RPKIの運用に向けた計測に関する発表

- レジストリによる安定した運用が大事、どのくらい実運用で使えそうかの実験

## □ RFC5549、RINGの紹介、DNSSECの計測

- IXでIPv6でピアしてIPv4で広告する方法を定義
- 事業者間で計測データを共有する仕組み
- 2.6%がDNSSECを利用

<http://www.nanog.org/meetings/nanog56/agenda.php>

# NANOG・ARINジョイントセッション

---

## □ IPv4アドレスの移転ポリシーアップデート

- 2012年6月にレジストリ間の移転を認めた以上にアドレスポリシー面での新たな情報はなかった

## □ CGNのコスト分析

- CGNのコストを分析の方法を紹介し、IPv6の導入とどちらにメリットがあるのか考察
- 仮説が多いが、具体的な算出方法も確認可能

## □ インターネットガバナンス パネルディスカッション

- 2012年12月のWCITに関する議論が中心、具体的な分析よりも国際通信に関する国際法の改正がインターネットにも影響を及ぼす可能性があることを周知する位置づけが強い印象

# 北米地域における移転の状況

---

- ARIN在庫は枯渇していないが、関心は高い印象
  - 参加者間でアドレス確保やリースの話がされていた
  - 弁護士、ブローカー等、事業者以外も参加
  
- 一方、価格面で折り合いがつけるのが難しいとの話も聞いた
  - あるブローカーから聞いた話では、移転元が1アドレス辺りUS \$ 11 ~ \$ 15を提示するケースが多い
  
- レジストリ間の移転は、意識されているものの実際の移転に至っているケースは現時点では多くなさそう
  - Hilco Streambank社は、取り扱う権利を受けた /8ブロックをそのまま/8単位で譲り受けられる組織を会場で捜していた

# パネルディスカッション ー インターネットガバナンス ー

- WCITにおけるITRの改正について、5名のパネリストと会場参加者で議論
  - モデレータはARINのインターネットガバナンス・政策分野の Executive Director Cathy Handley
  - ISOCの担当者、Vint CerfやComcast、Ciscoからのスピーカー等がパネリストとして議論
- WCITとは
  - 国際電気通信に関するITUの規則であるITRをインターネットも含めるように見直すべきか、検討が行われる会合
  - 2012年12月3日～14日 ドバイで開催
- non-ITUメンバーとして WCITに向けて意見があれば、ISOCに意見を寄せる方法が大きく取り上げられていた

インターネットガバナンスに関するARINからの情報発信  
(WCITの情報もまとめられています)

<https://www.arin.net/participate/governance/>

# ARIN XXXでの主な発表・議論

---

- DNS resolverのIPv6対応状況に関する発表
- 新gTLDへの割り当てに関する議論
- ポリシー提案6点のうち、2点がコンセンサス

[https://www.arin.net/participate/meetings/reports/  
ARIN\\_XXX/ppm.html](https://www.arin.net/participate/meetings/reports/ARIN_XXX/ppm.html)



# DNSのIPv6対応

---

□ APNIC Chief Scientist Geoff Huston氏による計測

□ DNS resolver全体のIPv6対応の比率は4.6%

- DNSSECの1.6%よりは高い比率
- 対応しているResolver比率の国別順位では日本は20位、一位はブータン

□ 一方、18%のユーザはIPv6 onlyのDNSにもqueryできる状況

# 新gTLDへのアドレス割り当て

- 現在のアドレスポリシーでは、gTLDは「クリティカルインフラストラクチャ」として、IPv4、IPv6ともにPIアドレスの割り当てが認められている
- クリティカルインフラ用のIPv4のリザーブ空間を/16から/15に拡大することを求める提案
  - "ARIN-2012-6: Revising Section 4.4 C/I Reserved Pool Size"
  - 新gTLDプログラムにより、対象者の増加が見込まれるため
- オープンディスカッションでは、どの段階で割り当てを求めるべきか問題提起が行われた
  - 申請組織がICANNと契約締結前にシステムを準備する上でアドレスが必要になると思われるため
- これまで通り、gTLDをクリティカルインフラとして見なすことが適切なのかとの疑問も投げかけられた

## ARIN XXXでのアドレスポリシー提案と結果

ARIN-2012-5: Removal of Renumbering Requirement for Small Multihomers	コンセンサス
ARIN-2012-7: Reassignments for Third Party Internet Access (TPIA) over Cable	
ARIN-2012-2: IPv6 Subsequent Allocations Utilization Requirement	継続議論
ARIN-2012-6: Revising Section 4.4 C/I Reserved Pool Size	
ARIN-2012-8: Aligning 8.2 and 8.3 Transfer Policy	棄却
ARIN-prop-180 ISP Private Reassignment	

APNIC・JPNICでは対応している。  
ARIN地域では棄却されたことは興味深い

## まとめ

---

- アドレスポリシー面で、APNIC地域としても特筆すべき議論は新gTLDへの割り当てへの対応
- 移転は関心が強いがまだレジストリ間の移転は具体的にケースは確認されていない

# 次回のARINミーティング

---

□ 2013年4月21日 - 24日 バルバドスで開催



# Q&A

---

